

2023年度

図書館等複合施設整備事業

第14回 小千谷リビングラボ「at!おぢや」

2023年7月30日（日）

席につかれた方から、
名札に、この場で“**呼ばれたい名前**”
の記入をお願いします。

呼ばれたい名前

2. 事業についての説明

3. オリエンテーション

● 共創 ●

小千谷市や事業にかかわるさまざまな立場のひとが
互いに情報を交流し、思い（想い）を共有しながら
市民とともにかたちづくる

「わたしたちの」新しい施設づくり、まちづくりを目指します。

情報環境構築業務 公募型プロポーザル

図書館等複合施設で利用する**情報環境の構築を行う事業者**について、公募型プロポーザルを実施しました。

優先交渉権者に選定

**おぢや複合施設
プロジェクト共同企業体**

カフェ運営事業者公募型プロポーザル

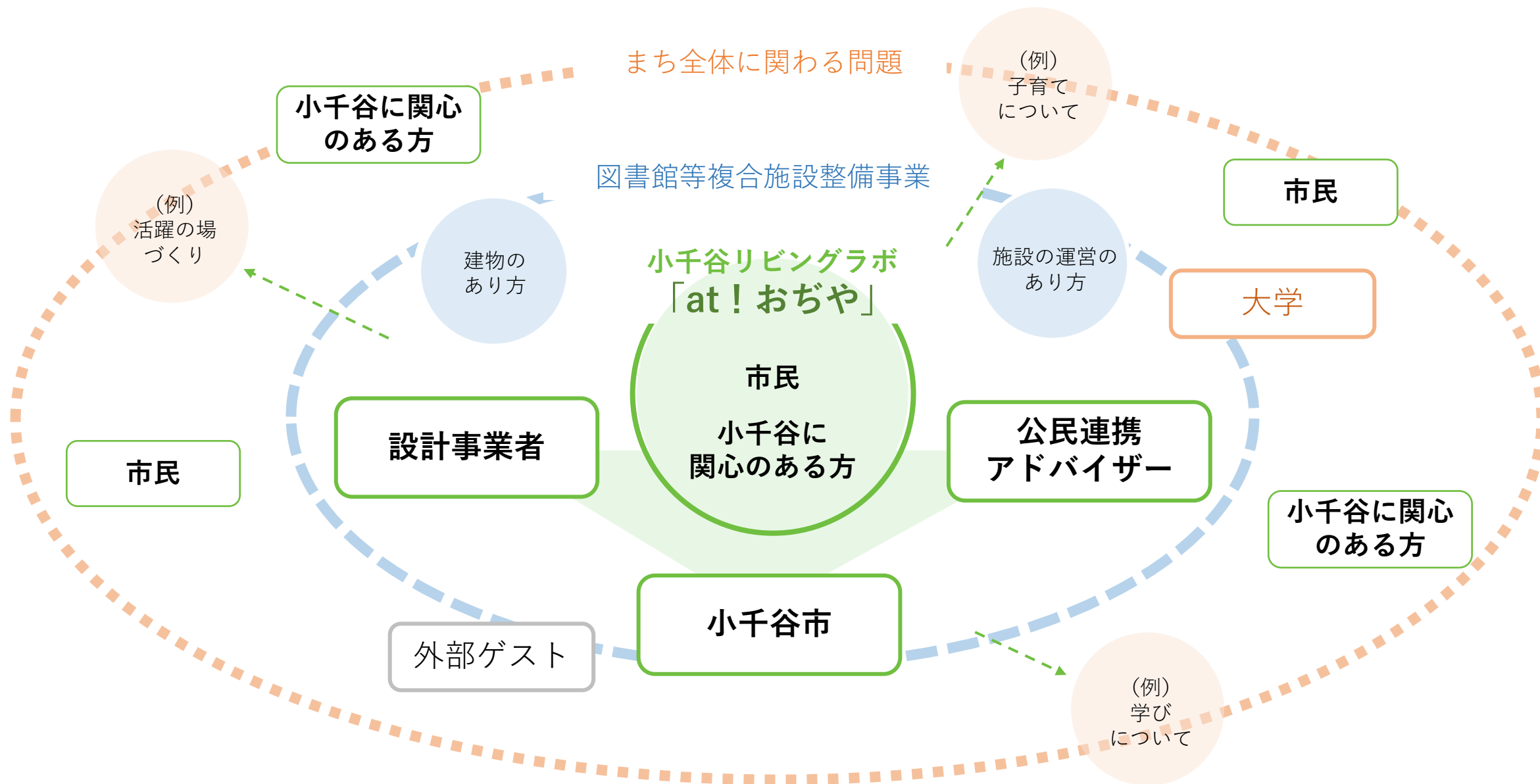
図書館等複合施設内の**カフェ運営事業者**について、公募型プロポーザルを実施しました。

優先交渉権者に選定

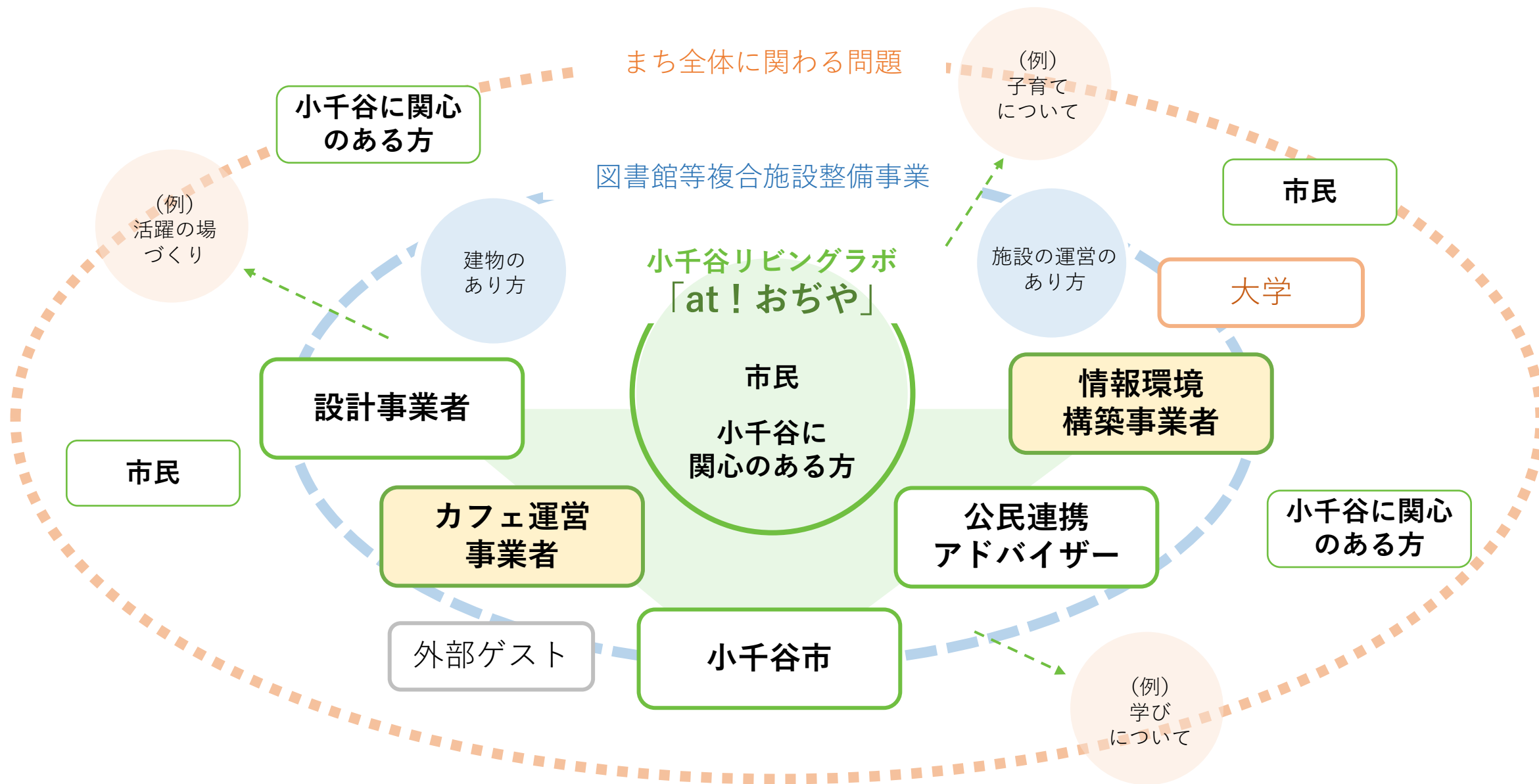
NISCIRO



小千谷リビングラボ「at!おぢや」の“これまで”のイメージ



小千谷リビングラボ「at!おぢや」の“これから”のイメージ





2022年度の目標

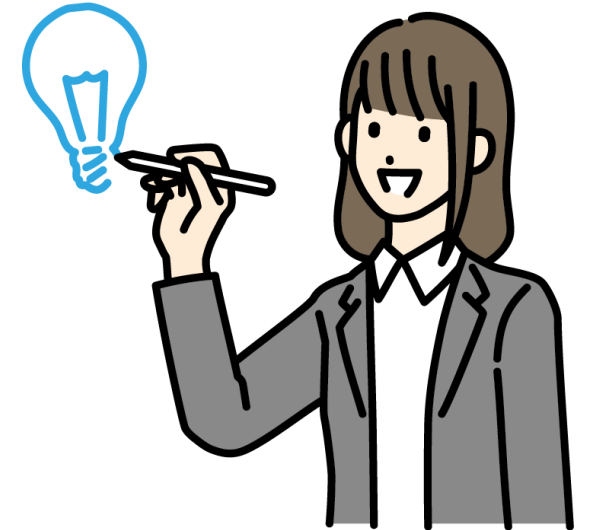
オープン後の施設を想像しながら
活動や体験を見つけ、
企画しよう

2021年度の目標

施設のあり方をともに作り、
施設の使い方を
ともに考え参加しよう

2020年度の目標

市民参加プラットフォームを
育てるための
土台づくりをしよう！



まちと公共施設の未来をともに創造する

第8~12回小千谷リビングラボ「at!おぢや」

ゲストトーク
「集まり動かす、
地域にひらく」

集まり動かす、地域にひらく

アンカーでのプログラムの
企画書をつくろう

「共創」の可能性を
改めて考えてみよう

持ち寄った古い写真で思い出を
語り合い、展示しよう!

オンライン開催

オンライン開催

土台作り

つくる

つかう・参加する

見つけ・動かす

2020年度

2021年度

2022年度

2023年度

開館後

▲ ▲ ▲ 「わたしの本」をつくるプロジェクト ▲ ▲ ▲
おぢや あたら しせつ おも
小千谷に新しくできる施設への想いを
えが
みんなで描いてみよう!

at!おぢや参加者の方の
発案で始まりました!

点線内に書いてください



点線内に書いてください



令和5年度小千谷小学校PTA

わたしの図書館

開館します

とき 8月5日(土)~13日(日)
ばしょ 市立図書館
(こども図書館内)

去年、小学生の皆さんに描いてもらった、こんな図書館あったらいいな、をテーマにした「わたしの本」。その中でも一番人気だった「おさかないっぱいの図書館」におとなたちがチャレンジします。

夢はおもっているだけでは、かないません。ことばにしたり、絵に描いてみることで、実現する可能性が高くなります。

子どもたちの夢をかなえたい。
そんな想いを込めて、「わたしの図書館」開館します。



キッズボランティアも大募集!
おうちに余っている水槽がある!
お魚のお世話がしたい!
等々おてつだいでくれる子ども
たちは図書館の人に声をかけてね。

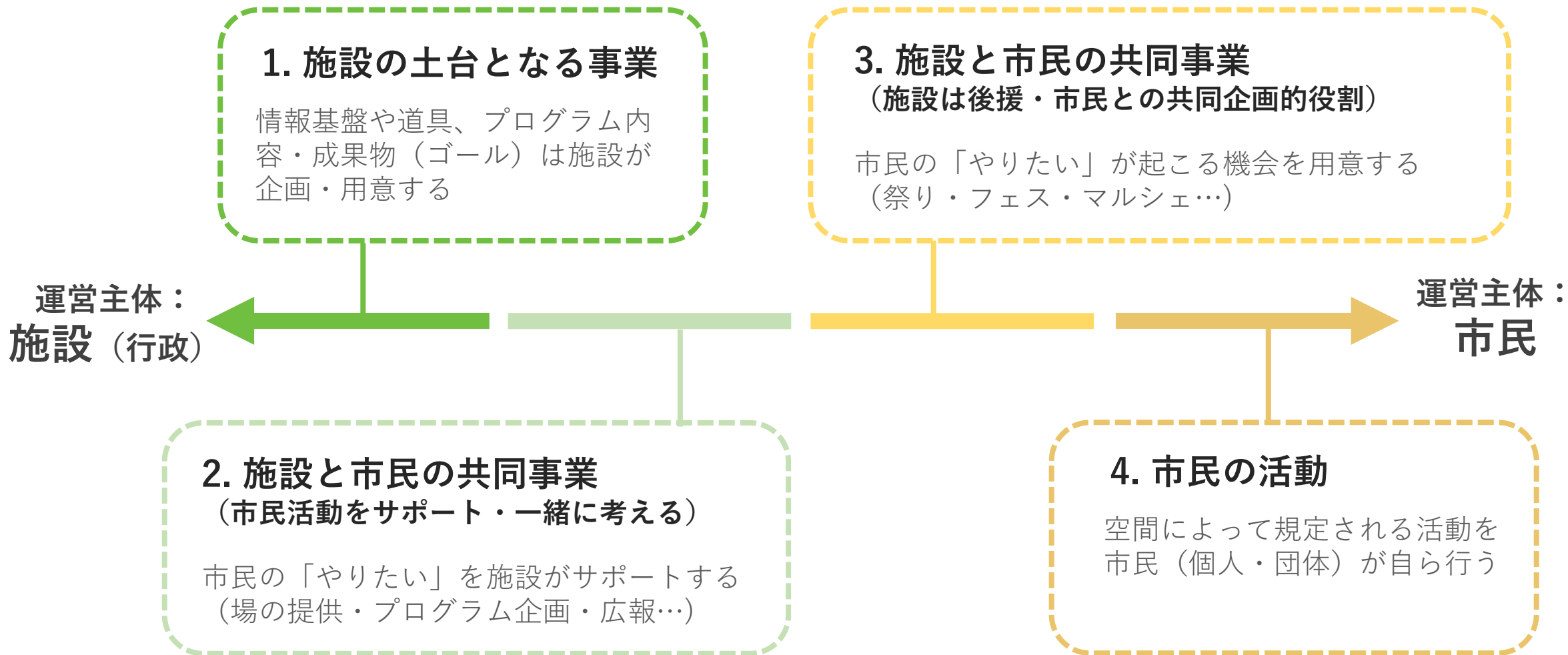
まぐろはいません。



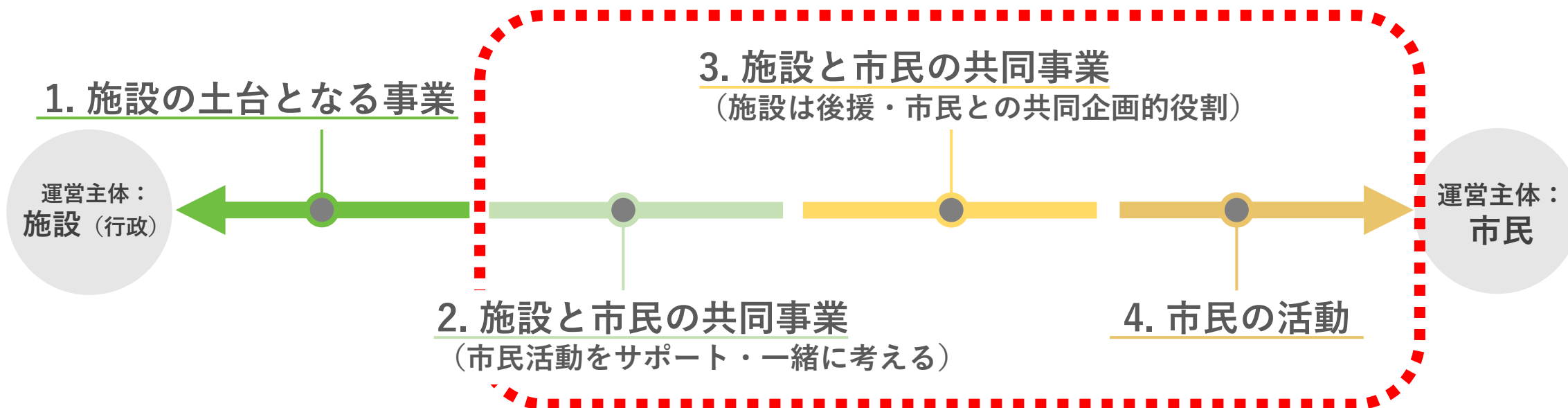
2023年度小千谷リビングラボ「at! おぢや」の目標

コトを起こす場を
自らファシリテート(計画・進行)する
「市民コミュニケーター」になろう

プログラム運営主体のグラデーション



みなさん自身がやりたいことを見つけ、
実際に動き始めてみよう！



第13回小千谷リビングラボ「at！おぢや」

「わたしたちの施設」の愛称を考えよう！

グループ①



グループ②



グループ③



グループ④



グループ⑤



各グループでの対話から5つの愛称案が生まれました。
これらを投票によって、at！おぢや案を決定しました！

ひと箱の本棚づくりから
「わたしの世界（テーマ）」を
表現しよう！

本事業が重視している施設の役割

図書館
機能

=

- 人々の「知る」という行為を支えるという重要な役割を担ったもの
- 人々の「知る」自由を支えるための機能

はいか 【配架】

図書館（図書室）で本・雑誌などを（分類に従って）棚（＝架）に並べる（＝配）こと。



**前提となるルール（規則）があり、
それに則って本棚に並べられていることで、
必要な資料（情報）にたどり着くことが出来る！**

現在の図書館（そして全国の多くの図書館）は
日本十進分類法に則って配架されています。

日本十進分類法とは

日本で使われている図書分類法。

図書の主題となる、あらゆる知識を1～9の数字を用いて分類し、どの区分にも属さない全般的なものには0を用いる。そしてさらに、0～9に分けるという繰り返しで分類を細分化している。

日本十進分類表 第一区分表

0類：総記	図書館、書誌学、百科事典、逐次刊行物、叢書
1類：哲学	哲学、心理学、倫理学、宗教
2類：歴史	歴史、伝記、地理、紀行
3類：社会科学	政治、法律、経済、統計、社会、教育、民族、軍事
4類：自然科学	数学、理学、医学
5類：技術	工学、工業、家政学
6類：産業	農林業、水産業、商業、交通
7類：芸術	美術、音楽、演劇、体育、諸芸、娯楽
8類：言語	
9類：文学	

日本十進分類法を体験してみよう！

**ランダムにピックアップされた書籍30～50冊を
この場で図書館員が日本十進分類法順に
並べ替えてみます！**

つまり、図書館における配架とは…

わたしたちの身の周りの世界が

どんな要素でできているのか、

体系立てて整理したもの

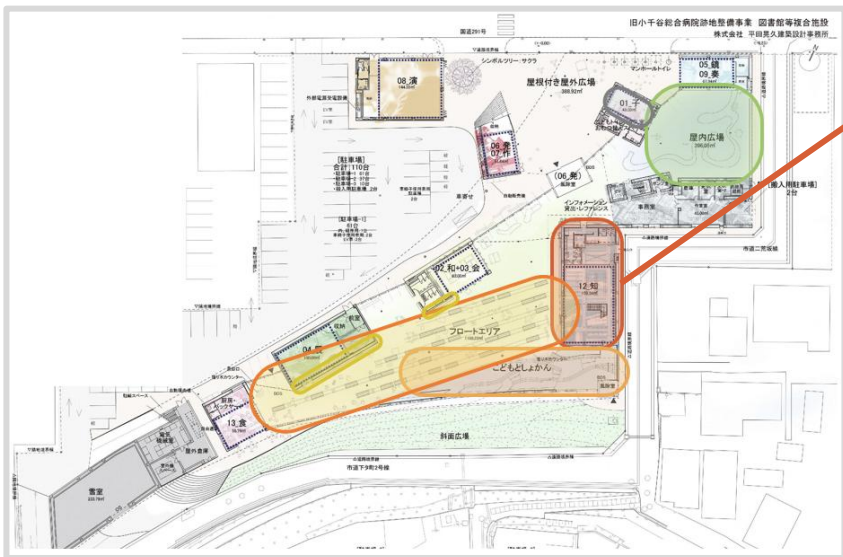
といえるのではないのでしょうか。

新施設の配架に関する方向性（現状案）

実空間に用意される資料や、ウェブ資料に接続するための情報端末は、「知」のアンカーやこどもとしょかんの書架、動的な資料空間であるフロートエリア、閉架書庫を中心に配置・収蔵していきます。また、各アンカーの内部や外壁にもそこで起こる活動と関連付けた資料を配置していきます。

図書館においては、それらの資料にどのように出会うかが、人々の体験や過ごし方と強く結びついています。この施設では、各資料の表す情報の体系やその並べ方だけでなく、それぞれのエリアや空間で起こる活動と連続した形での資料の配置を継続的に検証・検討していきます。

現状の配架の方向性イメージ



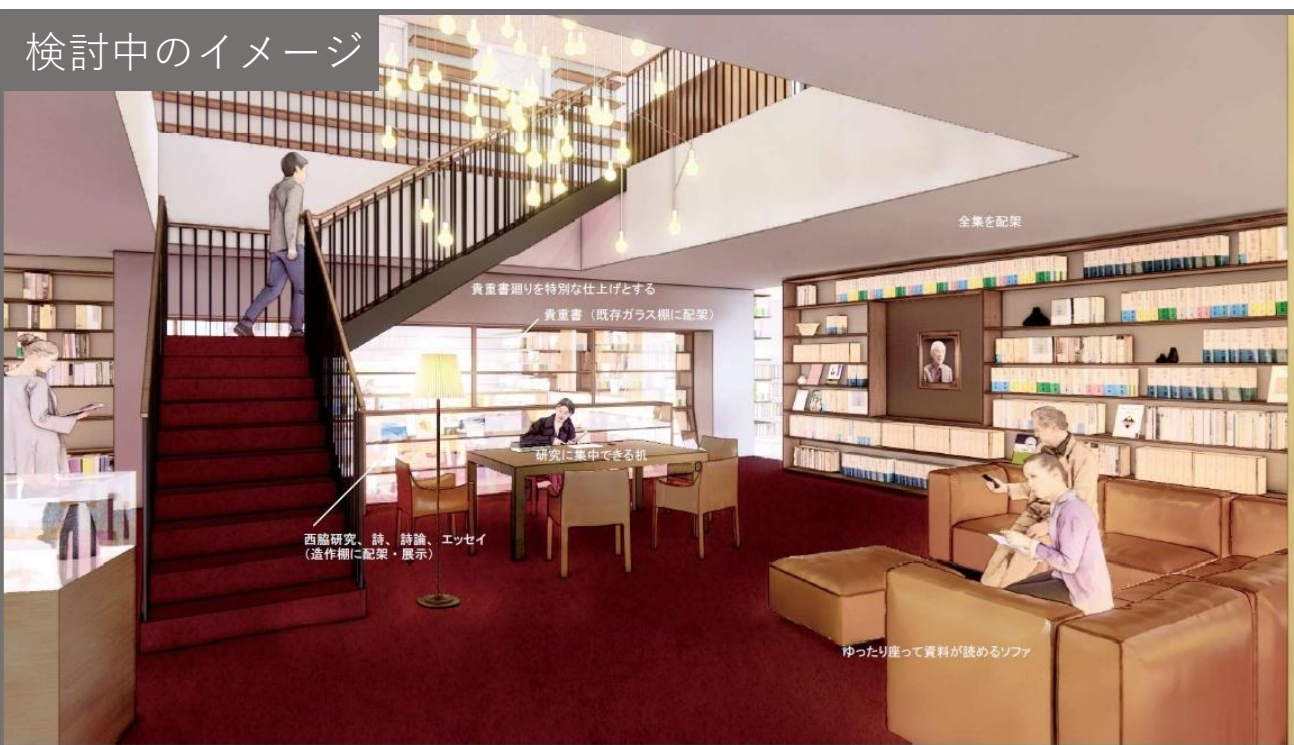
知アンカー

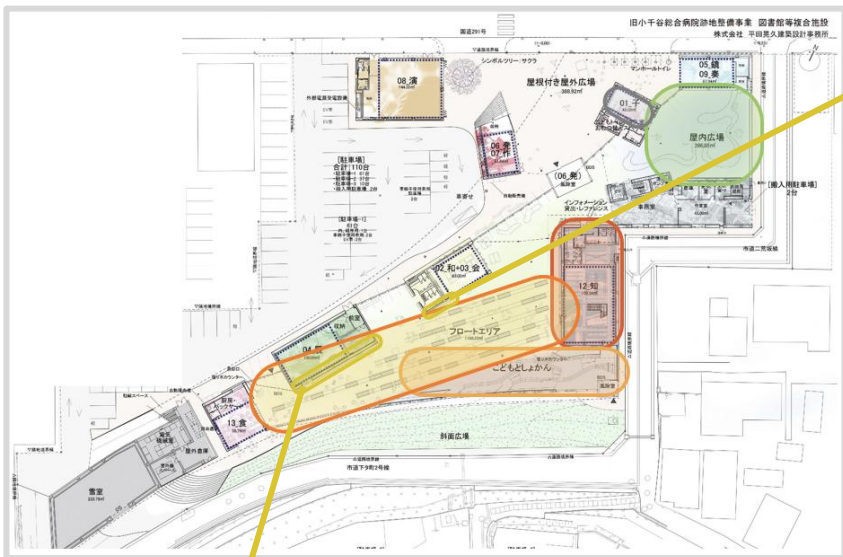
「知の世界の集積」

多様で密度の高い情報空間によって、知の世界へ出会い、没入していくことのできる場

【配架の現状方向性】

- 日本十進分類法(NDC)を基本とした配架 + 西脇順三郎関連資料の配置を想定
- 1階・2階に文学（9類）、その他（0～8類）を共に分割して配置





和+会アンカー壁面

**「人々が憩い、ともに地域
を支え育む居場所」**

人々が集い自身の持っているものを持ち寄り交流させ、
まちの文化や人々の関係性等を育んでいく

【配架の現状方向性】 (和+会アンカー)

- そここで利用者が話すであろうテーマを引き出して
配架していけるとよい

展アンカー壁面

**「みんなで持ち寄り、蓄積・編集・発信し、地域を知る
ことで地域を新たに発見する拠点」**

地域資源を蓄積・編集・発信することで、地域における魅力や価値を創りだす拠点

【配架の現状方向性】 (和+会アンカー)

- 縦軸を時間にし、横軸に地理的な設定・配置を想定 (実験中)

新しい郷土資料スペースの本棚の並べ方

★本棚の並びが、縦軸が時間、横軸が地域で並んでいます。

地域の中で、さらに生業・行事・政治・災害・人物の項目ごとに細分しています。

★地域や項目ごとの、歴史的変遷を本の背表紙の情報から「知る」ことができます。

★本以外にも、実物資料や写真を置くことで、より深く視覚的に「知る」ことができます。

※並べ方が急激に変化しましたので、探すのに困りでしたら、気軽に職員へお声がけください。



柏崎
上越

十日町・魚沼

小千谷

長岡

新潟県全域

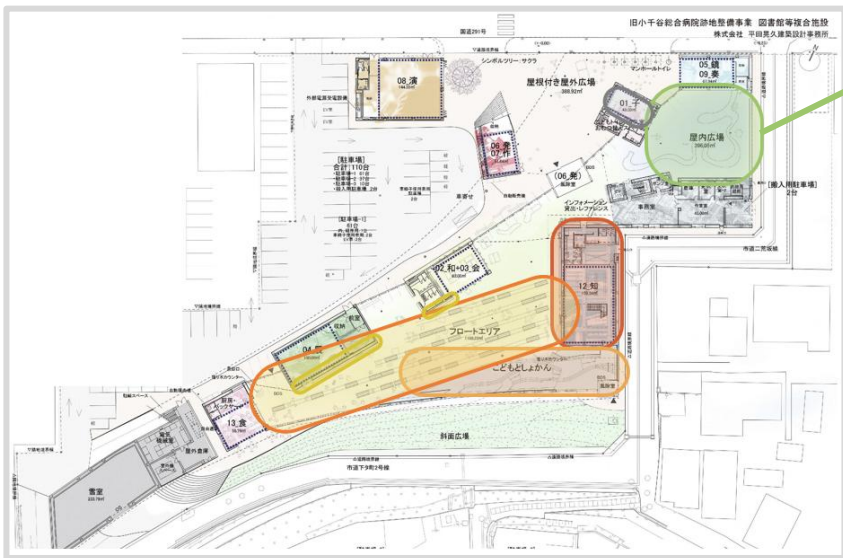
現代史 【田中角栄】	現代史 【芸術】	近代史	近代史 【小千谷権】 【角突き】	近代史 【人物】	現代史 【写真】 【行政】
近代史 古代史		中世史 古代史 【豪農】		近代史 【民俗】	近代史 【山本五十六】
大地 植物	良寛 【生き方】	大地 【北越雪譜】	近世史 【本喰観音】 【錦舞】	近世史 【戊辰戦争】	近世史 【戊辰戦争】
柏崎市史 上越市史	良寛 【人物像】	現代史 【生活】	中世史 【寺社】 【民俗】 【人物】	大地 災害	長岡市史
近世史 【醫女】	良寛 【書画】	現代史 【広報】 【統計】 【決算】	総論 小千谷文化	総論 【芸術】 【写真】	中世史
中世史 【上杉謙信】 【直江兼続】	良寛 【言葉】			総論 小千谷文化	総論 【芸術】 【写真】

県統計等

県史	県史	100 ~ 200
県史	越佐研究 高志路	210 ~ 214
下越・佐渡 近代史	地名辞典 温故の茶	214 ~ 281
下越・佐渡 近世史	地名事典	通史 281 ~ 291
下越・佐渡 中世史	風土記	291

→以降通常の分類です。
ご希望があれば同様の並べ方を行います。





屋内広場

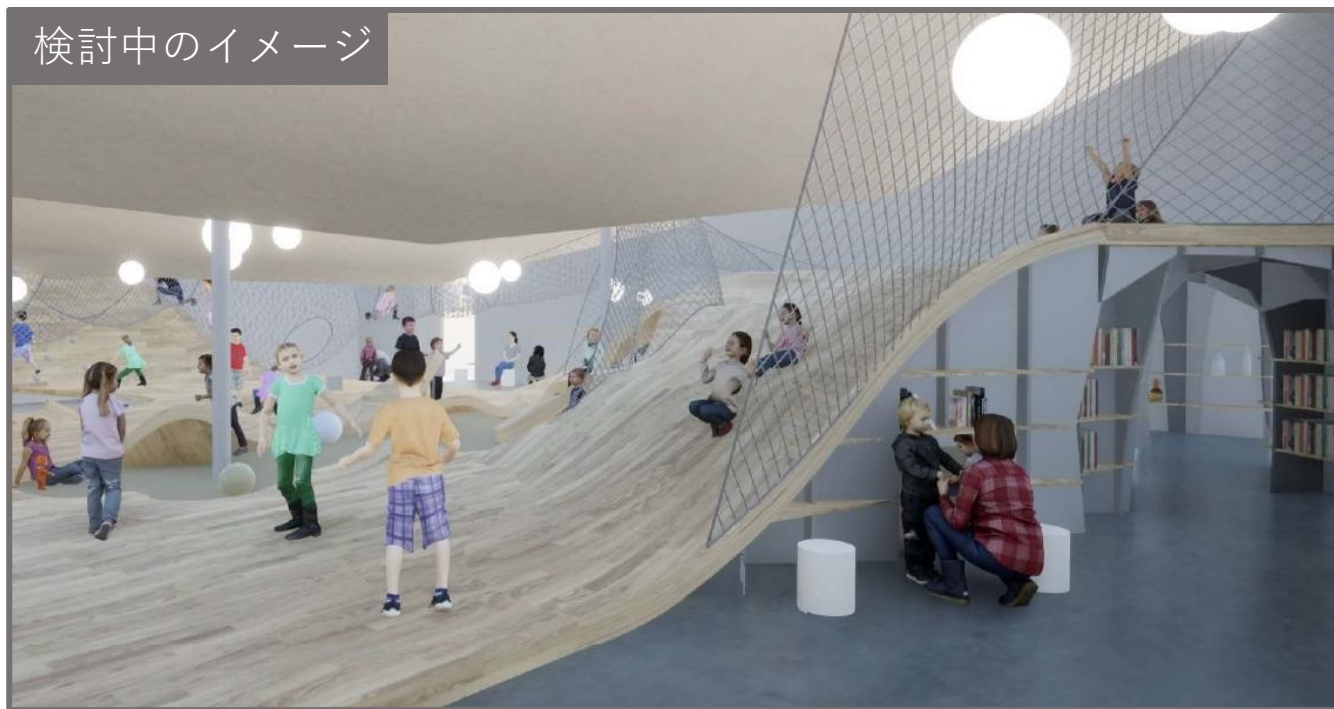
「子どもたちの身体体験と知識体験の交差点」

遊具を使って自由に体を動かす身体的な体験と、書架に並ぶ本を手に取り読む知識体験を掛け合わせ子どもたちの創造性や社会性を育む

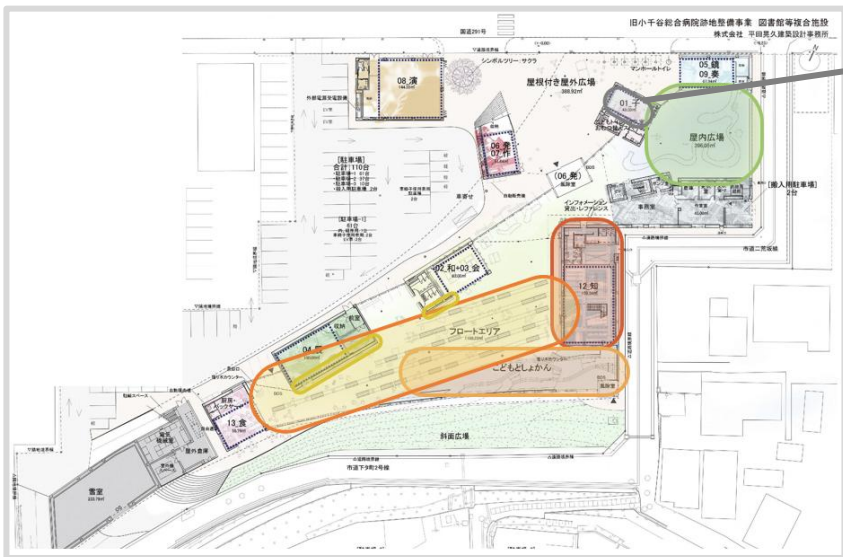
【配架の現状方向性】

- 身体を動かす屋内広場の体験と合わせ、ビジュアルをメインにした本や、テーマを起点として選定を想定

検討中のイメージ



現状の配架の方向性イメージ



子アンカー内部

「子どもを育むまちの共有地」

屋内広場と一体となって子育て支援機能を担う場所。読み聞かせを行ったり、子育て世代の交流や文化活動などへの参加を支援する一時預かり（事前予約制）を行う。

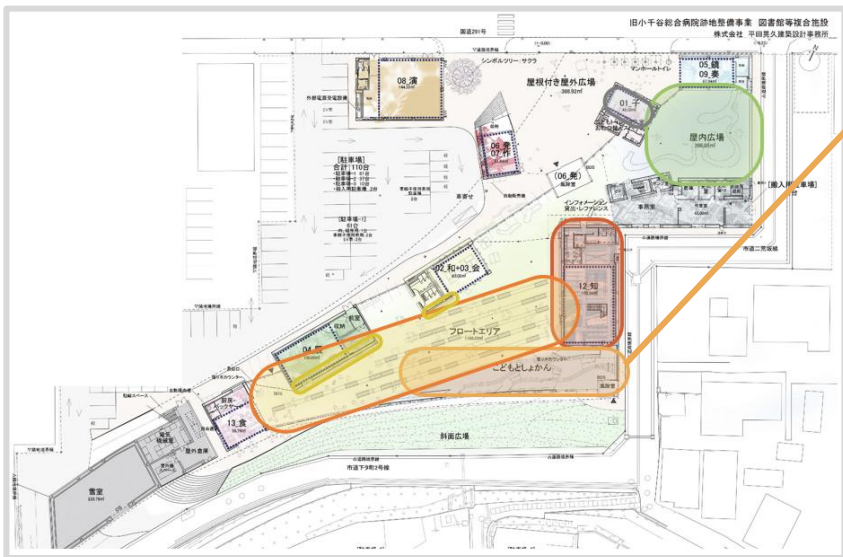
【配架の現状方向性】

- 絵本を配架したりおもちゃなどの設置を想定

検討中のイメージ



現状の配架の方向性イメージ



こどもとしゃかん

「子どもの世界をひらく窓」

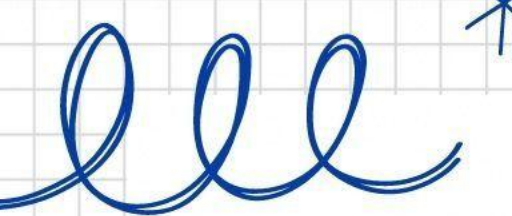
子どもたちが物語や知識に触れ、自分たちの世界をひらき、広げていくための窓のような役割を持つ場。

【配架の現状方向性】

- 日本十進分類法に依らないテーマでの配架を想定

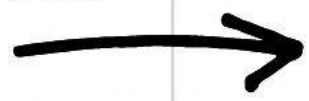
検討中のイメージ





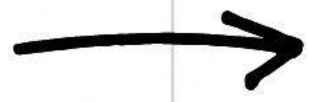
本と出会うために

日本十進分類法は慣れると探しやすいけどこどもにとっては
難しいキーワードも多い



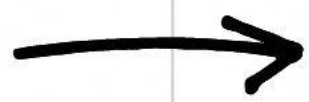
こどもの目線になったキーワードをつくる

同じような内容でも分類が違うため複数箇所に
本が置いてある

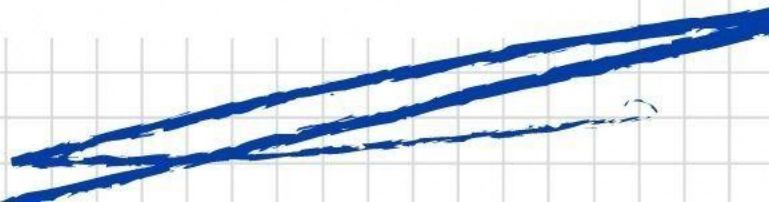
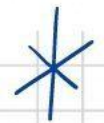


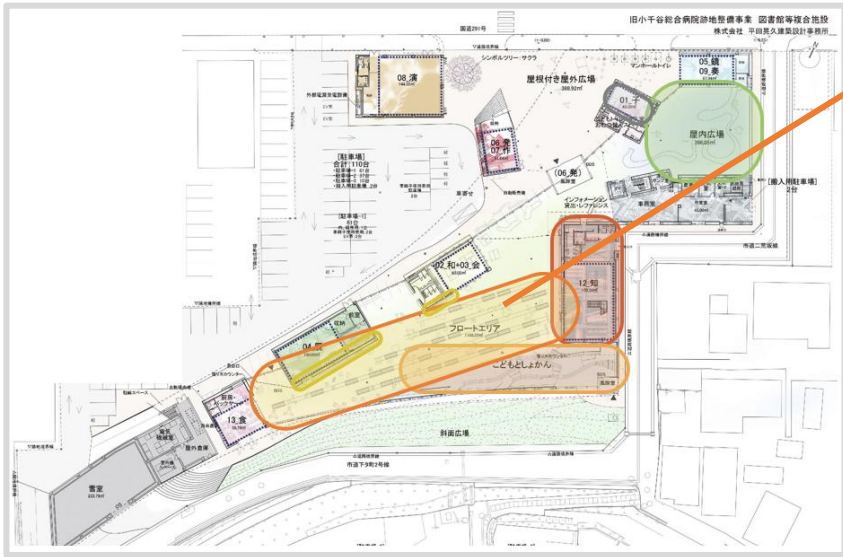
分類に縛られないテーマ配架にすると1カ所に置ける

あの場所にあるこの本を借りにくる
=同じような本としか出会えない



テーマ配架にすることで棚の内容が変化しつづける
=新しい本との出会いがある





フロートエリア

「情報と関係性を紡ぐ場」

フロート（配置を簡単に変更できる書架や可動の展示台）による動的な資料空間。
約40台の動く書架に約2万点の図書等資料と、その間を自由に動く郷土資料や歴史的文物のレプリカなどが置かれた展示台があり、利用者はその環境を散策する中で関心を広げていく。

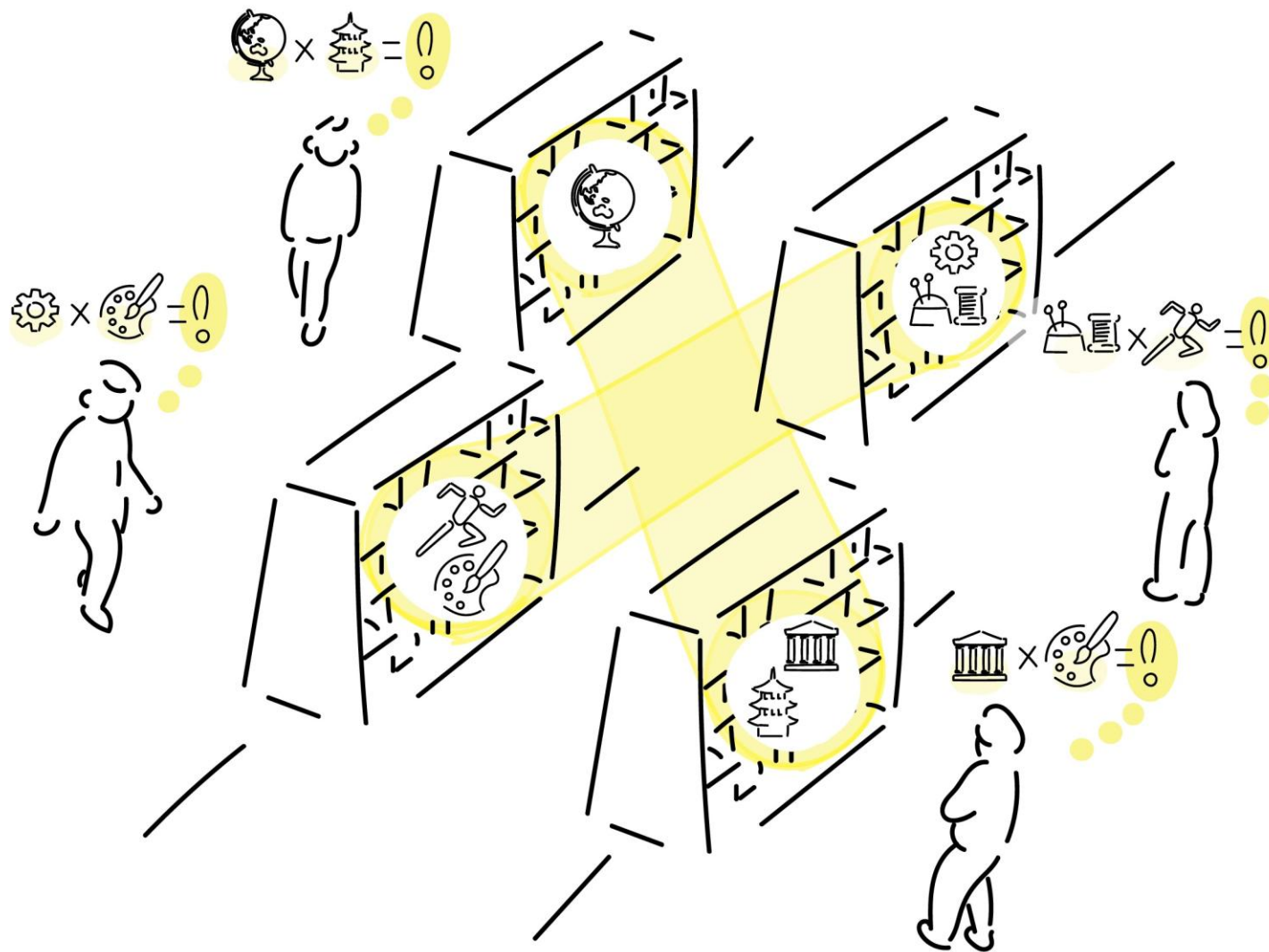
検討中のイメージ



書棚の配置から「小さな資料のまとまり」を読み取ることができる

通常は隣り合わない棚を近づけたり、遠ざけたりすることで、普段は気づかない本と本、棚と棚の関係に気づきます。

フロートは、「小さな資料のまとまり」をつくったり、利用者が読み取ってもらうことのできる仕組みです。



図書館では分類と場所が一致している

図書館とは…

- 本を分類し、
- 系統立って配列し、
- 公開・保存する場所

そのため、特定の場所に、
特定の分類の本が置かれ続
ける。

2類：地理	2類：歴史	1類：心理学	1類：哲学	0類：情報
3類：民族	3理：教育	3類：社会	3類：経済	3類：政治
5類：家政	5類：工学	4類：医学	4類：化学	4類：数学
7類：音楽	7類：美術	6類：商業	6類：水産業	6類：農林業
9類：文学	9類：文学	8類：言語	7類：体育	7類：演劇

そのせいで、関心の広がり限定されてはいないだろうか？

探しやすいものの、近くの棚は変わらない。

その上、近い棚であっても関係がない分類である場合が多い。特に向かいの棚！

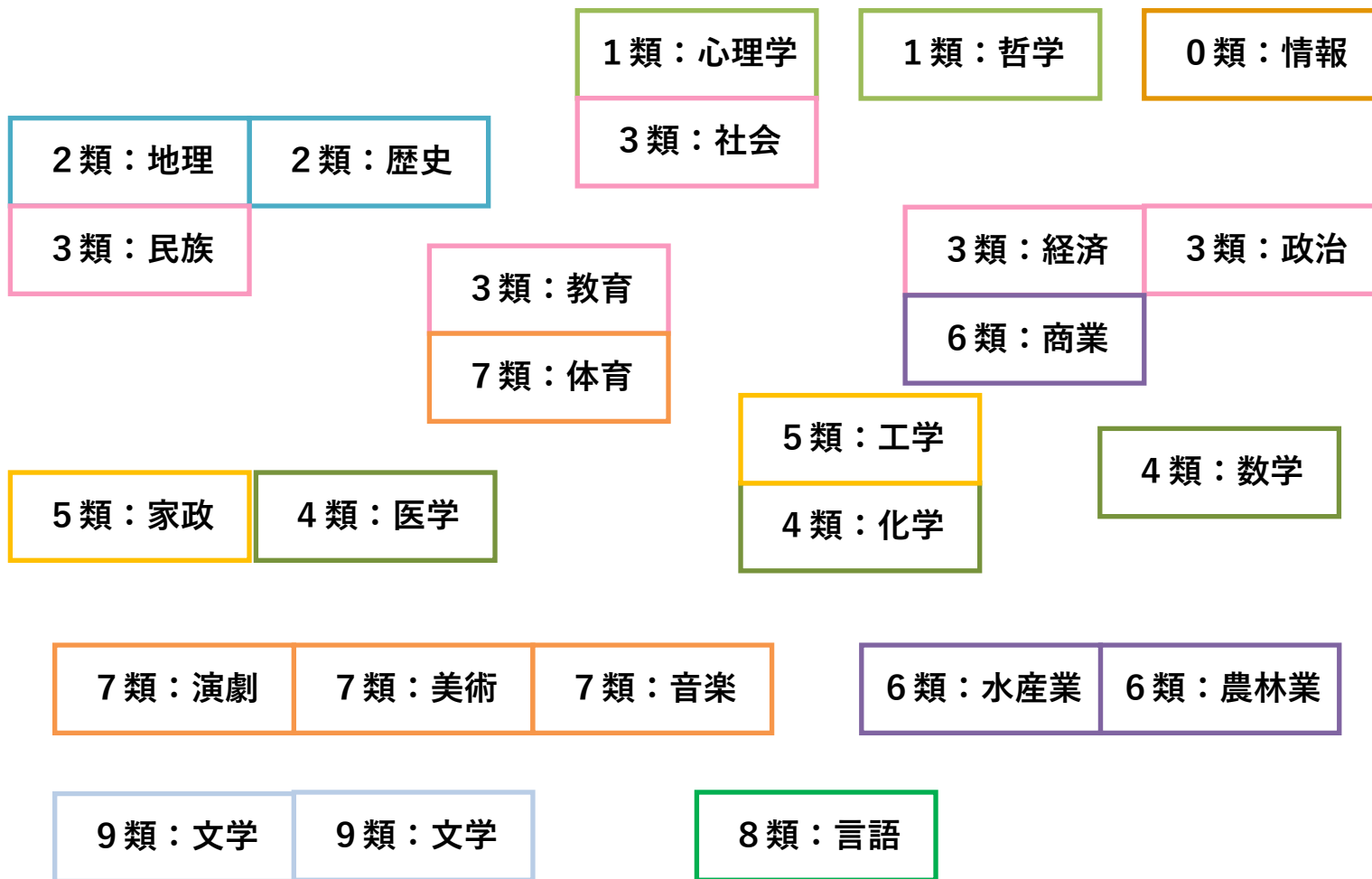
最近検索してピンポイントで棚に移動するため、ますます隣の棚をみようとしなくなっている（かもしれない）。

2類：地理	2類：歴史	1類：心理学	1類：哲学	0類：情報
3類：民族	3類：教育	3類：社会	3類：経済	3類：政治
5類：家政	5類：工学	4類：医学	4類：化学	4類：数学
7類：音楽	7類：美術	6類：商業	6類：水産業	6類：農林業
9類：文学	9類：文学	8類：言語	7類：体育	7類：演劇

場所を組み替えても近くの棚が固定されることは変わらない。

系統にこだわらず、内容的に近しい分類を自由に配置したとしても、特定の場所に、特定の分類の本が置かれ続けることは変わらない。

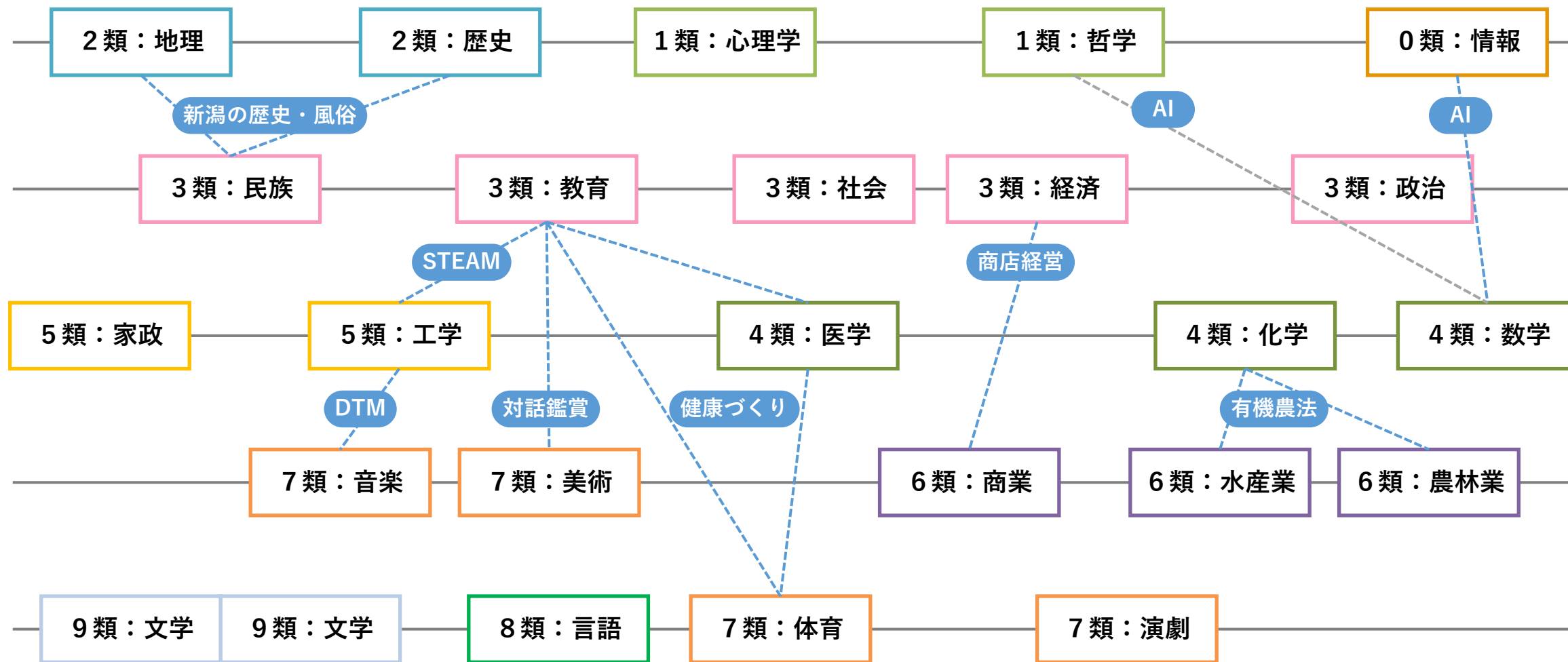
そもそも、隣り合った分類に「近しさ」を感じる人もいれば、そうでない人もいる…。



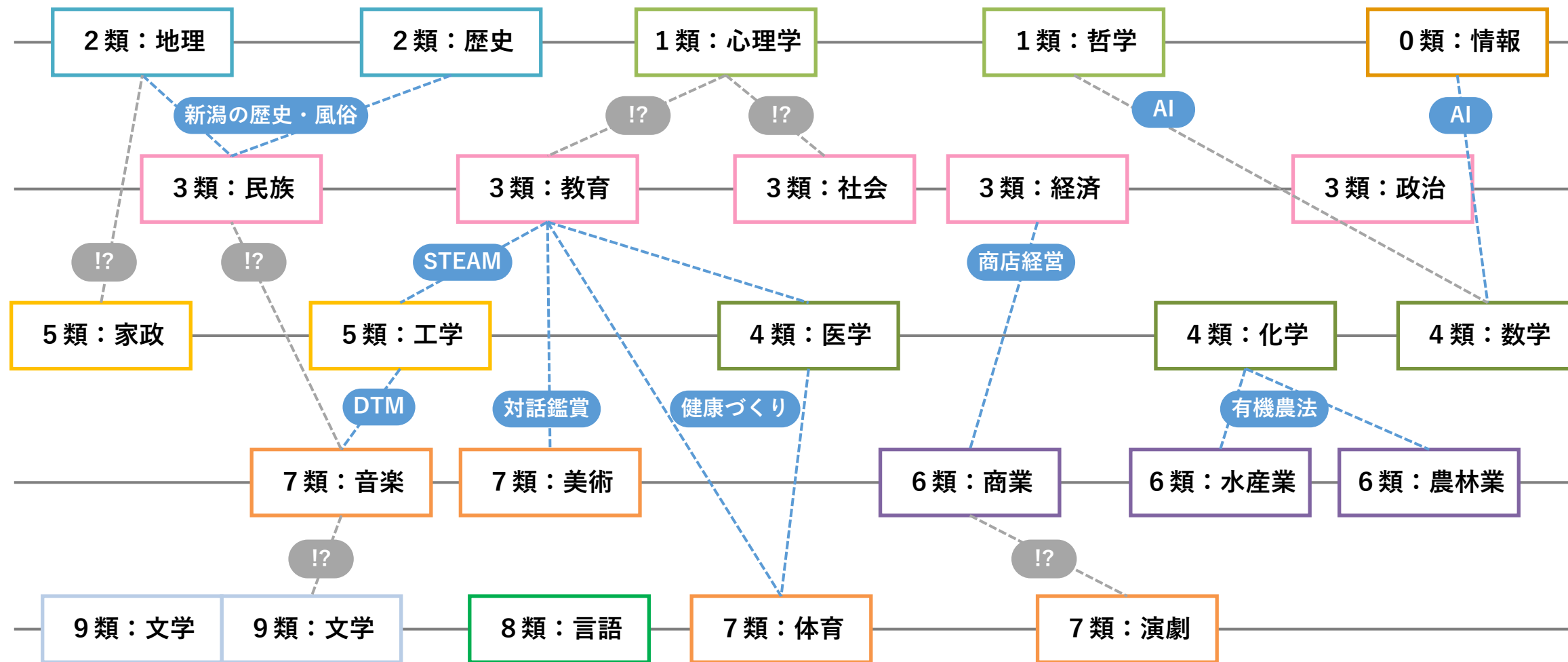
だったら、ルールをつけて…



配置で関係をつくったり…



配置で関係をつくったり、視線が抜けることで関係を読み取ったり。



たくさんの「小さな資料のまとめり」が見つけれられる場所です。

ひと箱の本棚づくりから
「わたしの世界（テーマ）」を
表現しよう！



「わたしの世界」を表現すること・人の世界に触れることで
書架（本棚に本が並んでいること）についての
可能性や面白さを体験しよう！

1

テーマを決めて本・モノを選び、ひと箱の本棚をつくる
[個人]

2

みんなのひと箱本棚の共有
[全体]

3

感想共有
[全体・各グループ]

1

テーマを決めて本・モノを選び、ひと箱の本棚をつくる
(30分)

①

ランダムに準備された
本（・モノ）の中から、
自分が表現したいテーマを考え
本棚に展示するものを選ぶ



②

選んだ本（・モノ）を
自分の箱の中で展示する

人に伝えることを
意識しよう！



「ホンダナ〜」作成の本棚①



※「ホンダナ〜」：棚づくり・本を通して、市民や職員の枠を超え、交流をつくることを目標に取り組みを継続しています。

2022年11月展示「読む×〇〇」

- ・カウンター正面にある特集用の棚をマンションに見立てて本を展示
- ・「〇〇」の部分は、各自が「読む」から連想したものをテーマとして設定

テーマ

「読む×**声**」、「読む×**過去・現在・未来**」、「読む×**昔話**」、
「読む×**えらぶ**」、「読む×**児童文学**」、「読む×**極北の生活**」、
「読む×**時代**」、「読む×**文字以外を…**」

※棚の空きスペースは、図書館に来た方の自由参加もOKとしている。

「ホンダナ〜」作成の本棚②

2023年7月展示 「つなげてみたら、何が見える？」



図書館の本から気になった本を1冊選ぶ

→ その本と関係がありそうな本を3冊選んでいく

→ 見えてきた本同士のつながりに名前(テーマ)をつける

という手順で取り組んだ本棚。

テーマ

「さがしものはなんですか」、「切る・叩く・焼く」、
「まつる(祭る、祀る、政る)」、「「まなび」タイ…。」、
「改めて知りたい日本のこと」


※3冊セットで貸出

4. ワーク

ひと箱の本棚づくりから

「わたしの世界（テーマ）」を

表現しよう！



ワーク結果の
共有

感想共有

5. まとめ

アフターお茶会